

# 令和6年度 延岡市立岡富小学校 学校評価

(4段階評価) 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標 (1 学力の向上 2 心の育成、安全教育の推進 3 体力の向上・健康の保持増進 4 個人応じた支援の充実 5 学校力の向上)

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果のコメント	自己評価	学校関係者	関係者評価コメント
学校力の向上	① 校内研修やOJTを推進し、授業力の更なる向上に努めるとともに、教師一人一人の人間力の向上に努める。 【OJT・相互参観、メンター方式の活用】	主題研究での理論研修や研究授業を通して、児童に問い合わせを持たせる授業づくりについて理解を深めることができた。また、相互参観を行い助言をもらうことで、自分の課題について向き合い、授業改善につなげることができた。	3	4	○開かれた学校づくりでは、地域とのつながりや相互理解になり、とても有意義な取り組みになった。 ○学校運営協議会や地域の方々との熟議など、また教職の方々の研修や研究など学校力の向上に向けた取組はすばらしい。まさに開かれた学校づくりを感じさせられる。 ○一つ一つの活動が見える形でよかったです。 ○多くの方にホームページを見ていただくための方法を考える必要がある。
	② 校内の様子の積極的な発信や児童の作品応募を通して、保護者・地域からの理解に努める。 【HP・学校だより・報道機関の活用、参観日等の充実】	学校便りや学級通信、新聞等のメディアを通して、児童の頑張っている姿や岡富小学校のよさを伝えることができた。また、学校ホームページの更新を積極的に行い、地域や保護者からの理解を得られるように努めた。参観日については、保護者と一緒にタブレットの使い方を学ぶなど、各学年での工夫が見られた。			
	③ コミュニティスクールの中心としての学校運営協議会の活性化を図るとともに、社会に開かれた学校づくりに努める。 【学校運営協議会の活用、外部機関団体との連携】	学校運営協議会において、学校職員と地域の方々との熟議（岡小わいわい会議）を行い、家庭科のミシン支援、延岡PR活動や山下新天街のお祭り企画の実施に向けてのアドバイス、宿泊学習における登山の補助など、地域の方々の協力の下に具体的な活動を行うことができた。今後もできることを無理なく続けられるように計画、実行していくたい。			
心の育成、安全教育の推進	① 生徒指導体制の充実を図り、「岡小 みんなのきまり」に基づいた生活態度の育成に努める。 【けいしん默想、あいさつ、5つの無言の場、小さなきまりの徹底】	各家庭に「岡小みんなのきまり」を配付、児童と約束事を確認し、全職員で共通理解・共通実践を行った。全学年で挨拶や五つの無言の場の指導を繰り返し行い、特に挨拶や無言清掃は良くなっている。しかし、廊下歩行については今後も指導が必要である。今後も、学校と地域・家庭が連携して、登下校の様子などを見守っていきたい。	3	3	○人と接する上での相手の立場の理解と、丁寧な言葉遣いの実践で、人とのふれあい、人の和に繋がっていくと思う。引き続きの心の教育を重点的に行っていただきたい。 ○地域との避難訓練を行ってほしい。行うことでのエリアにどのような方々いるなどの把握が全体でできるよさがある。子どもたちと地域の高齢者との交流の第一歩としたい。
	② 全教育活動をとおして、相手の立場を尊重する心の育成や人権意識の高揚に努める。 【丁寧な言葉遣い、人権教育の充実】	人権・同和教育の職員研修を行い、職員の人権意識を高めることができた。また、6年生の社会の授業や全学年の道徳・学活の授業で人権に関する内容を取り扱い、児童の人権意識も高めてきた。人権作品展にも積極的に参加した。丁寧な言葉遣いについては、名前をつけて挨拶をすること、「～さん」と友だちを呼ぶことなどを適宜指導した。			
	③ 不登校児童に対する支援の充実に努める 【不登校に関する会議等の充実】	月に1回全職員で生徒指導対策会議を行い、支援の必要な児童に対する共通理解を図ることができた。特に、対応が必要な児童については、SSWやSCを交えて、関係職員でケース会議を開き、対応を検討し、一人一人の状況や困り感に応じた対応をした結果、改善が見られる児童もいる。			
	④ 避難訓練や日常的な安全指導、定期的な安全点検を通じて防災や安全面の充実に努める。 【防災・安全教育の充実】	避難訓練や不審者対応訓練では、より実践的な訓練になるよう、訓練内容を工夫するとともに、専門の方を招いて助言をいただきながら、来年度に向けて訓練内容を見直した。計画的に安全点検を実施し、危険箇所の把握や修繕に努めた。			

体力の向上・健康の保持増進	① 体育に関する行事等を通して、規律、集団行動の充実や体育的活動の高揚、促進を図る。  【体育行事の充実】	水泳指導、運動会、時期に応じた運動について、できることを考慮・精選し、年間を通して体力づくりを進めた。また、救急救命法の職員研修やプール指導の見守り等で、地域の関係機関や保護者との連携を密に行い、体育的活動の安全な実施に努めた。	3 3	○運動会の土曜日開催については、次の日保護者が日曜日で休める点を考えるととてもよいと感じる。 ○運動に親しみ、自然な形での体力の向上や体を動かすことによるストレスの発散で、体と心の健康が維持できる。 ○健康な児童が育っていると感じる。外遊びをたくさんさせてほしい。 ○各家庭の様子を考えると、ゲームからネット環境につながり、生活習慣に影響を与えている状況もあるので、家庭内の使い方についても啓発をしていくとよい。
	② 個に応じた体力向上の推進に努める。  【岡小体力アップトレーニング・外遊びの推奨】	体育の授業では、「岡小体力アップトレーニング」として、けが防止のための準備運動や、体力向上のための運動を積極的に取り入れた。また、大谷選手寄贈のグローブを活用して、外遊びを推奨することで、体を動かす楽しさを味わわせ、運動に親しもうとする意欲を向上させた。		
	③ 望ましい生活習慣の確立に努める。  【生活リズムチェック週間、熱中症防止】	学期に1回、家庭と連携して「生活リズムチェック表」を活用しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣づくりに取り組んだ。また、全体の傾向を知らせて啓発することで、健康意識の高揚を図った。熱中症対策として、日ごろから水筒持参の推進や放送での注意喚起を行い、安全対策に努めた。		
	④ 食育を通じ、食べることの大切さや健康へのつながりの認識を深める。  【食育の充実】	栄養教諭による食に関する指導や給食だよりの発行、弁当の日の取組を通して食育の充実を図った。また、給食ひと口メモの放送や給食感謝週間の取組によって、食に対する感謝の気持ちや態度の育成に努めた。		
学力の向上	① 学習環境や教材、ICTを効果的に活用し、児童の学習意欲の向上に努める。  【指導内容の精選、具体物の活用とICTの活用】	○タブレットがようやく全児童分そろい、活用しやすくなった。昨年度より家庭に課題を持ち帰る学年が増え、より活用できている。 ○タブレットの活用の約束など、パワーポイントで作成し、保護者向けの文書を配布し、指導を徹底した。	4 3	○ICTの活用について、活用の仕方に不安を感じる部分があるが、情報モラル等家庭と連携して正しい使い方や活用の仕方を学んでほしい。 ○タブレットなど情報伝達技術を利用しての情報伝達や授業内容の目的と学習したことの活用方法を理解することで、将来に生かせると思う。 ○ICT等の今までになかった新しい技術がどんどん導入、活用が進められているが、児童らの適応能力がすばらしい。よい物はどんどん推し進めてほしい。 ○家庭学習の勧めについて、岡中ブロックでの共通化はとてもよい。
	② 個に応じた指導や協働的な学習の充実に努め、わかる・できる喜びを実感できる授業に努める。  【めあて・まとめの設定、学び合い、高学年一部教科担任制】	○教科担任として取り組むことで、学年の負担を減らしている。 ○主題研の中で、目当てとまとめの整合性を意識しながら、授業作りをした。		
	③ 主題研究をとおして授業内容の充実を図るとともに、基本的な学習態度と学習習慣の育成に努める。  【授業力の向上、チャイム默想・立腰指導・学び合いのルールの徹底】	○主題研の指導案の形式を工夫し、問い合わせをもたせる授業の研修を深めた。 ○ICTに鉛筆の持ち方などの基本的指導事項を資料として載せ、それを活用して指導を行った。		
	④ 家庭との連携を行い、発達の段階に応じた家庭学習の充実に努める。  【段階的な家庭学習の在り方】	○家庭学習の勧めについて、岡中ブロックで共通化し、1年から6年まで設定して配布した。		
	⑤ 地域人材の活用やよのなか教室を通じて、児童の将来の夢や職業観の展望を図る。  【キャリア教育の推進】	○地域のコミュニティースクールの人材を活用するために、話し合いを行い、2学期にかなり活用した。 ○キャリア教育支援センターと連携し、すべての学年で世の中教室を実施することができた。 ○世の中先生の放送は、実施時間や学年を工夫していく必要がある		

個に応じた支援の充実	① 児童理解及び特別支援教育への知見を深め、特別支援教育に係る指導力の向上を図る。 【就学支援、校内教育支援の充実】 ② 関係機関・団体との連携並びに特別支援教育との交流を通じた学習を推進する。 【外部機関との連携の充実】 ③ 特別支援教育に関する研修を深め、特別支援教育の視点の拡充・浸透を図るとともに、福祉教育の充実を進める。 【特別支援教育に関する研修・福祉教育の充実】	定期的な教育支援委員会の開催や、各学級の特別支援教育目標でのケース会議を適宜開き、校内教育支援の充実に努めてきた。また、要望が出た際に、コーディネーターが中心となり巡回相談など外部機関との連携を図った。  学校間交流や居住地校交流を計画・実施することで、職員・児童の特別支援教育への意識を高めることにつながった。また、定期的に放課後等デイサービスの担当者と各担任・保護者とで利用する児童についての実態やゴールイメージを共有することで、効果的な指導を行う手立てとした。	3	3	○児童の個々に応じた支援教育を行ったための指導力や意識の向上への取組がうかがえる。 ○明確なゴールが見える子、見えない子がいると思うが、将来をふくめ、一つ一つ話を聞いてサポートしてもらわなければよい。 ○学校からの情報提供が少ないので、支援の様子等を参観したい。

## 次年度に向けて

- 学校力の向上…学校運営協議会で話し合い（熟議）をすることで各学年が地域の方々の協力を得て、具体的な活動へつなげることができた。次年度も継続していくとともに、保護者・子どもたちを巻き込んだ熟議の在り方についても模索していきたい。そのためにも、学校で各学年がどのような活動をしているのか分かる一覧表を作成して、PTA会館に掲示したり、ホームページに掲載したりして、学習内容を保護者、地域の方々に「見える化」していきたい。
- 心の育成・安全教育の推進…今後も毎月アンケートをとり、教育相談を行い、外部機関とも連携しながら、一人一人の悩みに丁寧に対応していきたい。避難訓練については、専門家の意見をもとに、内容を見直し、自ら考え、判断する避難の仕方について検討していきたい。
- 体力向上・健康の保持増進…今後も生活リズムチェックを行うと共に、生活習慣改善のために児童と保護者が一緒になって考える啓発の在り方（参観日に親子合同の講演会開催など）について検討していきたい。
- 学力の向上…学習習慣やルールの共通実践を土台として、問いや気付きのある授業を展開するために、思考する手段としてのICT活用の在り方について検討していきたい。
- 個に応じた支援の充実…ユニバーサルデザインに基づいた学習環境づくりをもとにして、一人一人が「分かる・できる」授業づくりに努めるとともに、関係機関や保護者と連携し、児童にとって望ましい就学支援について計画的に検討していきたい。